

第 162 回 第一次大戦後のヨーロッパ②

1 第一次世界大戦後のフランス

- ・第一次世界大戦で戦場となったフランスは、荒れた国土の復興やアメリカから借りた戦費の返済を、ドイツからの賠償金に頼った。



ポワンカレ

- ◆ () (第2次) (在任 1922～1924 年)
- ・1923 年、ポワンカレ右派内閣は、賠償金支払い遅延を口実に、() をさそってドイツの工業地帯 () を占領した。
→ドイツは経済混乱におちいり、フランスは国際的な非難を浴びた。
→対ドイツ強硬策は失敗し、以後は協調路線に転じた。



エリオ

- ◆エリオ (左派連合政権) (在任 1924～1925 年)
- ・1924 年、() を承認した。
- ・外相ブリアンの努力により、1925 年、ロカルノ条約を結んだ。

2 国際協調主義と軍縮

- ・第一次世界大戦での大きな被害に懲りた各国は、協調と平和の維持に努めた。
→ () の中で、戦争を防ぐための条約が結ばれて行った。

- ・1925 年、英・仏・独など 7 カ国が () を結び、相互不侵略や国境の現状維持を定めた。
→1926 年、ドイツは国際連盟への加入が認められた。
- ・1928 年、フランス外相 () とアメリカの国务長官 () が中心となり、「戦争をしない」という条約がパリで結ばれた (当初 15 カ国)。
※この条約を () (ブリアン・ケロッグ条約) という。
- ・1930 年、() が開かれた。
→ワシントン会議で決まらなかった補助艦の保有比率が定められた。
※イギリス・アメリカ・日本の保有比率を、10・10・7 と定めた。
→この決定に対して日本では、軍部や右翼から猛反発が起こった。
- ・1932 年、ジュネーヴ軍縮会議が開かれたが、合意には至らなかった。



ロカルノ条約

スイスのロカルノで結ばれたこの条約は、当時の国際協調の雰囲気を象徴するものである。しかし結果的には、戦争を防げなかった。



アメリカのケロッグ国务長官

クーリッジ大統領の国务長官を務めた。国务長官とは、日本でいう外務大臣 (外相) にあたるものである。



フランスのブリアン外相

この不戦条約は、後に 63 カ国が調印し、日本も参加した。憲法第9条は、この不戦条約の第1条をモデルとしたものである。

3 ソヴィエト連邦の成立

- 1922 年、ソヴィエト政権はドイツとの間に（ ）
を結び、国交を回復した。

☆（ ）（1922～1991 年解体）

都…（ ） ※現在はロシアの首都

- 1922 年、（ ）、（ ）、（ ）、
（ ）の 4 国は、連合してソ連を結成した。
→後に他の共和国も加わり、全 15 カ国となった。
- 1924 年、ソヴィエト社会主義共和国連邦憲法が制定された。
- 1924 年にイギリス、イタリア、フランス、1925 年には日本がソ連を承認した。

1922	ドイツ	第一次世界大戦後、国際的孤立状態 ラバロ条約 独ソ国交回復
1924	イギリス	（第 1 次マクドナル ド労働党内閣の時）
	イタリア	
	フランス	
1925	日本	（同年、治安維持法 の制定）
1933	アメリカ	（フランクリン＝ローズヴェルト の善隣外交政策）
1934	ソ連の国際連盟加入	

○新経済政策（ネップ）の
市場進出への期待
の
評価

4 レーニンの死とスターリンの独裁

- 1924 年、ロシア革命以来の指導者である（ ）が死去した。
→世界革命論を唱える（ ）と、（ ）を
唱える（ ）が対立し、後継者争いが起こった。



レーニンの死

レーニンは、1923 年に
発作（おそらく動脈硬
化が原因）を起こし、
政治の表舞台から退
いていた。遺体は防腐
処理され、現在も展示
されている。



トロツキー

VS



スターリン

レーニンは、トロツキー
については「有能だ
が、自己過信しすぎて
いる」と評し、スターリン
については「粗暴すぎ
る。解任するべき」と評
していたとされる。

◆（ ）（1928 年ころ権力掌握～1953 年死去）

- スターリンは、トロツキーら対立する勢力を追放し、指導者となった。
→その後、ブハーリンら実力者を次々に逮捕・粛清し、1930 年代初頭には完全な
独裁者となった（スターリン体制）。
→反対派は強制収容所におくられ、少数民族にも強制移住を行った。
- 1928 年、（ ）で、本格的な社会主義計画経済がはじまった。
→集団農場の（ ）や、国営農場の（ ）が建設され、
農民の集団化がすすめられた。
→重工業を優先したため工業力はあがったが、消費物資が不足して国民の生活は苦
しくなり、多くの餓死者も出た。



消されたトロツキー

第 158 回のプリントに
ある写真と比べてみ
よう。スターリンは、ト
ロツキーの写真を修
正して消し、レーニン
の側近というイメージ
をなくそうとした。



コルホーズのポスター

コルホーズでは、
土地・農具・家畜
などが共有とされ
ていた。
富農は厳しく弾圧
され、多くが収容
所に送られた。



ソフホーズ

ソフホーズでは、土地
や農具は国有とされ、
農民は給料をもらって
働いていた。
生産する作物や買い
上げ価格まで、すべて
政府が決めていた。